

# 令和6年度 第3回 学校運営協議会 及び コンプライアンス委員会 報告

1 日時 令和7年 2月19日(水) 9:30~11:45

## 2 出席者

運営協議会：運営委員7人、本校教職員11人

コンプライアンス委員会：運営委員会7人、PTA副会長、本校職員13人

## 3 会議次第

### (1) 学校運営協議会

- ①校長あいさつ (校長)
- ②令和6年度 学校運営について、学校自己評価 (校長)
- ③令和6年度 各学部・寄宿舎の取組と評価 (各主事・主任・指導員長)
- ④保護者・児童生徒アンケート 報告 (教頭)
- ⑤運営協議委員の皆様より御意見

### (2) コンプライアンス委員会

- ① 不祥事根絶の取組報告 (教頭)
- ② 後期教職員人権アンケート (生徒指導課長)
- ③ 児童生徒いじめ体罰ハラスメント報告 (生徒指導課長)
- ④ 相談について (養護教諭)
- ⑤ コンプライアンス委員の皆様より御意見

## 4 協議等記録

### (1) 学校運営協議会

#### ①校長あいさつ (校長)

今年度の取組や、それに対する評価が適正か、学校教育目標を達成することができたか評価していただきたい。

今年度、教員の論文、児童生徒の絵画、作文が他団体から評価されるといううれしいことがあったことを報告したい。

#### ②令和6年度 学校運営について、学校自己評価 (校長)

資料に沿って説明を行った。

委員A：アンケート結果の項目の記載なしとはどういうことなのか。

教頭：自分が直接携わっていないのでわからないということであった。今後、回答の選択肢について考えたい。

#### ③令和6年度 各学部・寄宿舎の取組と評価 (各主事・主任・指導員長)

幼稚部：少人数化が進んでいるので、学部全体での活動も多く取り入れた。そのことで、友達の様子がよくわかるようになり、自分とは違う友達の態度や言動を受け入れながら、自分も発信し、一緒に遊べるが増えてきた。また、友達の話聞くことが楽しいという気持ちを持つ子供が増えている。

全教員で全幼児のことを共有する中で、子供を育てることができてきている。今年度も金岡保育所にご協力いただき、25回程度交流教育を行い、同年代のお子さんに関わる貴重な機会をいただいている。今年度は、年長児だけであるが20分ほどZOOM交流を実現することができた。弁当交流、金岡保育所の年長児さんが本校の遊具で遊ぶ交流も行うことができた。回を重ねるごとに緊張が解け、お互いの理解が進み良い交流ができた。

小学部：児童数10名、教員数11名と恵まれた環境の中で教育活動を行うことができた。大きな怪我もなく、この一年で子供たちが大きく成長したと感じている。友達や教員との関わりの中で自分も友達も先生との関わりも大切にして、相手に対して思いやりの行動が取れるようにするという部分では、アンケート結果から手応えを感じている。小学部は6年間という長さであり、心や体の成長や知的な面での成長も著しい中で、言語の拡充や、わかったにつながる授業については、まだまだ教員のアンテナの高さ、教材研究、専門性の向上については努力が必要だと感じている。働き方改革、ウェルビーイングと言われる中で、先生方は朝から晩までやってくれているが、まだまだ努力していかないと子供達の成長に間に合わないと感じている。来年度も引き続き頑張っていきたい。

中学部：今年度も1年生のみ3人という少人数の中でやってきた。人数が少なく先輩がいないという状況なので、高等部と連携し、部活動の合同練習、単元によってではあるが体育も合同授業、実習の壮行会や報告会への参加、高3生徒による進路講演会などを行ってきた。高校生活や高等部卒業後の生活まで具体的な見通しをもつところまでいかないが、高等部の先輩の姿を見て具体的な目標を持つことにつながっていた。委員会活動や部活動についても、少人数ではあるが行っていくことで、それぞれの自主性等が身についたように感じる。電子黒板、UD教科書、デジタル教科書、Googleの活用を行ってきている。視覚障害を併せ持つ生徒にとっては見やすい環境を作り、生徒の意見を提示するという一方で、読んで友達の考えを共有する、共同作業ということでも役立っている。ただ、メディアリテラシーについては指導をしていく必要があると感じている。今年度も第五中学校との交流を行い、相手のことを考えながら交流の計画を考えた。また、1名であるが学力調査を第五中学校で受験させてもらった生徒もいた。

高等部：1年1人、2年3人、3年2人である。3年は、卒業間近で社会に出る不安もあるので、移行支援会議で地域、進路先にきちんと繋げていきたい。今年度も職場実習を年2回行い、いく前には目標を立て、帰ってきてからは反省を行い、今後どう生活していくべきなのか考えながら学校生活を送るようにしてきた。今年度は生きる力の中でも言語力に重きを置き、朝学習の時間に水曜日は言語指導、また、金曜日に読書の時間を設定した。本の貸出数が増えるなど効果が見えたので来年度も継続していきたい。外部との関わりという面では、沼津市の社会福祉協議会に誘っていただき、外部の販売会にも参加させてもらった。地域の方に生徒の存在とか学校のこと

を知ってもらう良い機会になっているので、来年度も継続していきたい。一方で、課題もあった。実習に行くにあたって、授業時数の確保が難しいので、来年度はそのことについて取り組んでいきたい。

地域支援部：今年度2月1日現在、教育相談は41人、134件実施した。様々なお子さんが見えたが、病院、保健センター、在籍する園や学校との連携が必要だと感じた一年だった。今後も連携を大切にしていきたい。乳幼児クラスには、1歳児クラスに一人、2歳児クラスに二人在籍している。今年も保護者と成長を喜んだり、一緒に考えながら新しいことに挑戦したりしてきた。教育相談に来ている0～2歳のお子さんの保護者と一緒に保護者講座に参加していただき、保護者同士の情報交換や不安の軽減に役立てていただいた。通級指導教室には、31人の小中学生が通ってきている。在籍校にお邪魔して授業参観や難聴理解授業を行うなどし、それが子供自身の自己理解につながった。また、在籍校の担任と顔合わせができたことで、その後の支援に良い影響を与えたことが多かったと感じたので、来年度も大切にしていきたいと思っている。

寄宿舎：清掃奉仕の際に、地域の方が挨拶を返してくださったり、雄峰祭の出店で優しく接していただいたりしたことで、健聴者の方と積極的に関わろうとする生徒が見られた。一緒に活動するという場は大変良かったので、来年度も引き続き地域の方に関わって行けるように支援をしていきたい。視覚の生徒も寄宿舎に在籍している。今後は、職員の聴覚の専門性だけでなく、視覚の専門性も高めていくようにそれぞれの学校と連携して進めていきたい。来年度は、視覚の生徒が増え4人になる。生徒が安心して生活できるように環境整備を進めていきたい。

#### ④保護者・児童生徒アンケート 報告 (教頭)

資料に沿って説明

保護者からの御意見について、各学部で検討を行い、懇談会や面談で説明・伝達を行った。

児童生徒アンケートでの問題と思われることについては、一人一人丁寧に対応している。

#### ⑥ 運営協議委員の皆様より御意見

委員A：幼稚部の交流でZOOMを使ったという話があったが、どんな方法でコミュニケーションが成立したのか。また、子供の数が減り、教員の数も減っているが、教員の数を確保するのは聾学校としての責任ではないか。寄宿舎に視覚の生徒が増えているということに驚いたが、一緒に生活している中で支え合っているという例があるのか。例えば、朝登校するとき、聾学校までは一緒に歩き、支え合っているということがあるのか。

幼主事：ZOOM交流では、本校の年長児1名、金岡保育所の年長児27人が1月の最初に交流した。一緒に活動するという事は難しかったので、新年の挨拶、たこあげの歌、1年の抱負、冬休みのことの発表を行った。本校の幼児は、発音明瞭度検査では、9割を超える明瞭度であったので、金岡保育所の年長

児たちは聞き取ることができていたと思う。

金岡保育所長様：冬休みの発表では、聴覚の年長児は絵を見せてくれながら話をしてくれた。話も聞き取ることができた。その次の交流でのやり取りにも役立っていた。冬休みで交流に間が空いてしまったので、ZOOMで交流をし、次の交流を楽しみにすることにもつながった。

寄宿舎指導員長：まだ支え合うというところまで至っていない。聴覚の男子中学生は、発音が良く聴力もいいので、視覚の生徒と余暇時間などで関わる中で、コミュニケーションが成立していることが多い。聴覚の女子中学生は、視覚の小学生と一緒に登校する様子は見られている。今後、防災訓練などで支え合うことができていくといいと思う。

教頭：今年度、御意見を取り入れて、ホームページなど外部への発信にも力を入れてきた。地域の人材活用や交流にも力を入れてきたことで学校自己評価の中でも評価が高く出ていた。御意見をいただきありがとうございます。

委員B：先生方の研修について、自分で目標を掲げて取り組むということがあった。先生方も一人一人異なるということから、研修にも多様性という視点を取り入れているということになるほどと思った。先生方の意欲も伝わってきた。今後も研修を進めていただければと思う。

委員A：聾学校に関わる機会が少ないので、委員として意見を言うのは恐れ多い。しかし、この1年を通してみるとかなり完成度が高まってきていると思う。ただ、もう少し考える機会、例えば現場をいつでも自由に見る機会があるといい。一生懸命な先生方の姿に高い評価をしたい。今後も子供ことを考えて続けていてほしい。

委員C：アンケートに対して真摯に捉えてフォローアップをしっかりとしている。昨年度は、高等部のアンケート結果にネガティブな結果があったが、今年は保護者の中にはほとんど無かった。生徒のアンケートでは前向きな姿勢があるからこそマイナスの回答が出てしまったということで、非常に改善されているということがいろいろなところで見受けられる。地域で、色々な所で学校の名前が出てくるようになった。子供の美術・芸術面を伸ばそうとしている何かがあれば教えていただきたい。

教頭：美術の専門の教員が、各学部に入って指導をしていることが大きい。子供自身が持っているものを引き出すということで作品作りに力を入れている。作品については、ホームページの中で沼聴ミュージアムとして載せているので、是非御覧いただきたい。

委員D：今年度は、地域の自治会にも発信してもらえているようで良かった。ホームページが新しくなって見やすくなったが、各学部の主事はそれをどう評価しているのか聞きたい。

幼主事：これまで、子供のつぶやきを載せたりして臨場感のあるホームページを作ってきたつもりだった。今は、こんなことがありましたという報告と写真という構成で、分かりやすくなったのかもしれないが、その時起こった子供達の生の様子を詳しく伝えるにはどういう改善が必要かと学部では話題になっている。

- 小主事：新しく変わって、体勢というか連携はきちんととっていききたいと感じている。  
小学部としてやってきていることとは変わらないので、偏りが無いとか、バランスがいいようにやっていききたいと思っている。
- 中主事：生徒がタブレットを使ってポスターを作るなどの活動をしてきているので、生徒が発信することもできるようにならないかと思っている。
- 高主事：継続して行事ごとに記事を書いているので、変化は特にない。生徒達は色々できるので、生徒発信があってもいいと思っている。卒業生が沼聴の魅力集を作ったので、アイコンを作ってもらった。学年だよりには、QRコードをつけてホームページも見てもらえるような工夫を始めた。
- 地域支援部主任：あまり更新をしていないが、ホームページを見て相談に来ましたという方はいるので、量は多くなくても相談してみようか、電話してみようかと思われる発信をしていきたい。
- 寄宿舎指導員長：作成がしやすくなって、次々に載せている。卒業生がそれを見て訪ねてくれるようになった。
- 委員 D：県の作るホームページなので、非常に形式的で、発信する側がこういう情報を載せていけば大丈夫だというレベルで、まだ、足りないと思っている。例えば、相談のパンフレットは出てくる。でも、普通はスマホで見る。スマホで見た時にホームページからどれほどの情報を読み取れるのか、ほしい情報の所に行けるのかが重要だ。この情報を読んでもっと知りたければ、もう一枚めくってもっと詳しい情報がもらえるという工夫ができると良い。会議室に掲示してある新聞記事もホームページになぜ出てこないのか。そういう意味では、もう少し改良が必要だ。岡崎聾学校は、ホームページの他にブログを作っている。ブログはいきなり必要な情報のところに入っていくことができる。この事が改善されると良い。
- 委員 E：児童が減少している中で、学部間のやり取りだとか OJT の取り組みなど連携が素晴らしいと感じた。交流の中で、幼稚部の先生に保育の活動をしてもらって金岡の職員の研修に繋がった。ICT の活用では、うまく活用していることも良いと思う。高等部の生徒が社会に出ていくことに不安を感じている様子がアンケートでわかったが、その生徒に丁寧に対応していることも良いと思った。金岡の交流では、歳を重ねるごとに友達同士の関わりだとか繋がりが深まり、どうやったら伝わるのか考えたり、「今の分かった？」などという自然なやりとりが見られたりするようになる。多様性を求められる時代に、心が柔らかい子供のうちに色々な友達がいるということを知る良い機会だと思っている。
- 委員 F：情報発信の件だが、ブログ、インスタ、フェイスブックなどから入って、もう少し詳しい情報をホームページにとりに行く事が多いのではないかと。私どもはフェイスブックを活用していて、ちょっとした日々のことを切り取って発信している。先生達が学齢期に合わせて、社会に生活していけるように努力している。学校を卒業した後、企業と繋がった時に環境が変わっていく中で、環境の変化に対するソフトランディング的な何か、学校で先生方が指導して来た内容をつなぐ場があるといいと思う。

委員 G: 生徒数の減少をひしひしと感じている。今後どうなるのか、良い方向に向かっていくといい。小学部からわかる授業という話があったが、永遠のテーマになるのではないかと思うが、子供が興味を持てるように、集中して取り組めるように工夫してくださっていた。小さい時からあいさつはしっかりするということを言っていて、事務室に用事がある時もしっかり挨拶をするようにしていた。今、職場実習に行っても自然に挨拶ができるようになってきた。実習先からも評価されていた。体に染み付くように小さい時からやっていく事が必要である。勉強だけでなく、人好きな子供にさせるということは大事だと思う。学部を超えて色々な行事をしていって、学部を超えての繋がり、楽しく過ごせる場を作っていくといいと思う。

委員 A: 車に乗っているときに、他校では卒業生のアピールなどを塀などにしていることがある。明るい情報になるので、やってみたらどうか。

教頭: 色々な御意見をありがとうございました。

## (2) コンプライアンス委員会

### ①不祥事根絶の取組報告 (教頭)

コンプラ通信の紹介、意識を継続して高めていくことの手助けになった。

今年度、本校では不祥事はゼロである。

### ②児童生徒いじめ体罰ハラスメント報告 (生徒指導課長)

前期に比べ、「ある」という回答をした生徒は少なかったが、全てのことに事実確認を行い、支援や指導、見守りをしている。

悩んだ時に相談できる人がいないと答えた生徒が5人いた。これは前期より増えており、悩みが多くなる時にアンケートを取ったことも関係しているかと思われるが、それぞれの学部で共有して注意して見守ってきた。卒業後困った時に自分から相談するというのも大事な力なので、今後も支援指導をしていくようにしたい。

### ③後期教職員人権アンケート (生徒指導課長)

前期より数値的には向上している。しかし、幼児児童生徒を呼び捨てやあだ名で呼んでいるのを見たことがあるという問いの数値が高く出ている。これは職員室などで教員同士の話の中で聞いたことがあるということかもしれないので、どんな場面でも敬称をつけて呼ぶということを職員会議でも全職員に周知した。

### ④相談について (養護教諭)

今年度の相談件数は、少なかった。しかし、心の不調が体の不調となって出ている子供が多く、その子供達には、声を掛けてスクールカウンセラーに繋げたり、学部の先生と協力したりして対応した。

### ⑤コンプライアンス委員の皆様より御意見

委員 G: 先生が、子供のことをよく見ていてくれて、様子がおかしい時に何かあったのではないかと声をかけてくれている。それが個人だけのことでなく学年全体に関わることであったりした時にも良かったと思う。自分の子供は、心の不調があった時に保健室に行っても先生に聞いてもらったり、また、保健室の先生が担任の先生に橋渡しをしてくれたりして、学校生活を送っているという部分が

ある。本人が知らないところで先生同士が情報の共有を上手くしていただいているので、今後も開けた関係で思ったこと感じたことを直接話し合えるようにして行ってほしい。

委員 F：不祥事が減っている。細やかに見てくれている。生徒数が減っているということが課題なのだが、減っているからこそ細やかに見てもらえているということもある。心の不調ということがどこでも課題だという思いになった。

委員 E：コンプライアンスが色々なところで浸透して来ていると思った。コンプラ通信が読みやすいと思った。回覧にして帯をつけ、見たらチェックするという形もいいのではないか。呼び捨ては親しみの深さが現れているのかもと思ったが、保育園でも呼び捨てにしないということは気を付けている。意識を持って行うことが大事だと思った。

委員 D：特にないです。

委員 C：コンプラ通信がよくまとめられている。わかりやすい。色々な目線で書かれている。掲示板で見てもらっているということだったが、繰り返し読むことで意識の向上が図られると思うので、ハンドブックにすると良いと思う。

委員 B：今、聾学校は生徒数が減って来ていて、1対1の授業場面が多い。そうすると自分の言いたいことが限られてくる。問題意識が出にくい。同級生が多いと、誰かがあれっておかしいよねと話すことがあるだろうが、そういうことがない状況になっている。そのように考えることがなく大きくなっていってしまう。そういう心配がある。先生と信頼関係があればいいが、そうでないと自分を守る意識が強くなって自分の殻に閉じこもってしまう。先生方は、その辺りのことを注意して、聞こえない生徒の気持ちを感じ取ってほしい。

委員 A：子供のいじめの中に SNS でのネットいじめが深刻である。教職員と生徒の不祥事もネットを通してということがある。中学部の報告の中でメディアリテラシーということがあったが、ネットの中で大人達が、何かあると多数で言葉で責めていくということがある。そういうことが子供達の身近にあるので、影響されやすいと思う。ネットを通していじめに繋がらないということへの配慮をして行ってほしい。

教頭：色々とお意見ありがとうございました。子供達一人一人をしっかりと見るということ、子供が萎縮しないで自分を解放して話すことができるような環境が大切だと改めて感じた。各学部で、今いただいたご意見をもとにコンプライアンス意識を高めて取り組んでいきたい。

校長：ありがとうございました。今、どこの場面から切り取られても非常に厳しく見られている。一人一人が意識していかなければいけない。そして見られているという意識を持つことも大事かと思う。今年度不祥事はなかったが、引き続き自分を律しながら行動していく、疑いを持たれないような環境づくりも大事だと考える。そういう意味では、ここにいる学校の中心的人物が意識しながら学校の環境を整えていきたいと思う。